

1年		4年	理科「季節の生き物」「春の生き物」「夏の生き物」「秋の生き物」
2年		5年	理科「花のつくり」
3年	理科「生き物をさがそう」	6年	

みんなで校庭や近くの公園に出かけて、植物、昆虫、鳥などの種類や数、また、その成長や活動の様子、季節による変化などを調べましょう。

そして、調べたことを整理して、みんなで話し合ってみましょう。

毎年、同じところで調べていると、年による移り変わりやまわりの生き物とのかかわりも見えてきます。



(1) タンポポを調べてみよう

春、花がさいているタンポポを探してみましょう。草の高さは5～30cmぐらいで、黄色い花がさきます。花びらを1つとってよく見ると、それが1つの花になっていることがわかります。タンポポの花は、小さな花がたくさん集まって1つの花の形（頭状花）になっているのです。

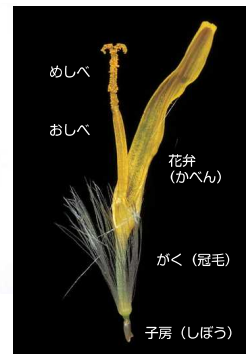
どんなところにさいているでしょうか。

タンポポと同じような花がさく植物がありますので、見まちがえないようにしましょう。

◎タンポポをくわしく観察しよう



頭状花（断面） 右の写真にある小花がたくさん集まっています。



小花 花びら（花弁）の先は5つに分かれています。



子房が実り果実ができると冠毛が広がります。

◆タンポポの種類

伊丹で見られるタンポポには、市内に昔からあったタンポポ（カンサイタンポポ）と、1904年ごろに、ヨーロッパから日本に入ってきたタンポポ（セイヨウタンポポ、アカミタンポポ）があります。

昔からあったタンポポか、新しく入ってきたタンポポかは、花を包んでいる緑色の部分（総苞）の形で見分けることができます。

◆シロバナタンポポを探そう

数は少ないですが、市内には花の色が白いシロバナタンポポもあります。探してみましょう。



◆総苞外片の形



反り返らない（カンサイタンポポ）



反り返る（セイヨウタンポポ（アカミタンポポ））

(2) ツバメを調べてみよう

ツバメは、春とともに南の国からやってきて、建物に巣をつくり、卵を産み、ひなを育てます。

市内では3月中ごろから11月の初めまで、町中や農地、川原など、いろいろな場所で姿を見ることができます。その間、どのようにして過ごしているのでしょうか。調べてみましょう。

【観察のポイント】

- ・3～4月：初めて見た日、場所、周囲の様子、天気、何をしていたかなど。
- ・4～7月：巣の場所と材料、親鳥やひなの様子、えさの種類やあたえ方など。
- ・8～11月：親鳥と若鳥のちがいが、見かけた日と場所、見なくなった日など。



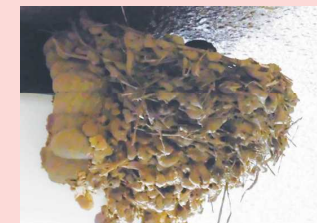
巣立ちした若鳥にえさをあたえる親鳥



4月24日 前年の巣の横に巣を作り始めました。



4月28日 新しい巣が完成しました。



5月14日 巣の中で親鳥が卵を温めています。



5月26日 巣の下に卵のからが落ちていました。



6月3日 親鳥がひなにえさをあたえています。



6月19日 ひなの巣立ちが近づきました。

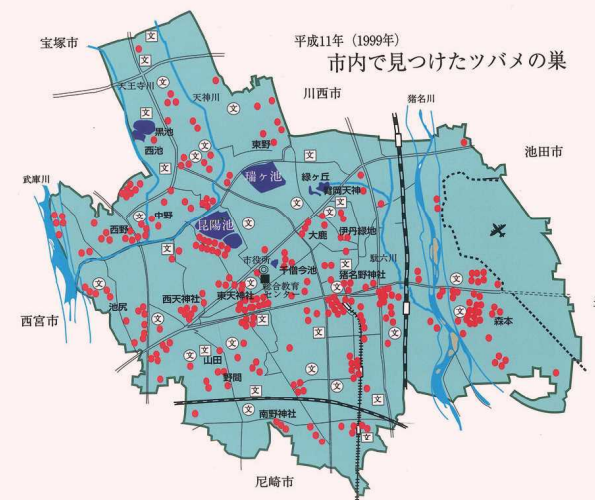
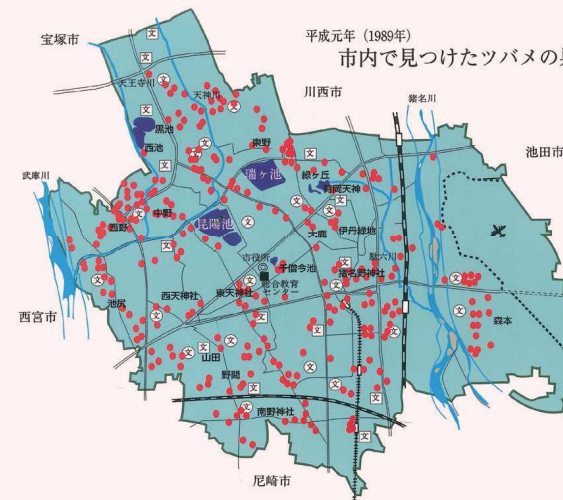


6月19日 ひなが巣から飛び出しました。



6月19日 巣から出て、親鳥にえさをねだっています。

市内で見つけたツバメの巣



左の図は1989年、右の図は1999年に、小学校のみんなで調べた記録です。図の赤い点が巣のあった場所です。1989年に326個あった巣が1999年には249個に減っています。今はどうなっているのでしょうか。 新版伊丹の鳥（伊丹市立総合教育センター2000年）より引用

1年	生活科「なつとなかよし」	4年	
2年		5年	
3年	理科「こん虫のかんさつ」	6年	

(3) セミを調べてみよう

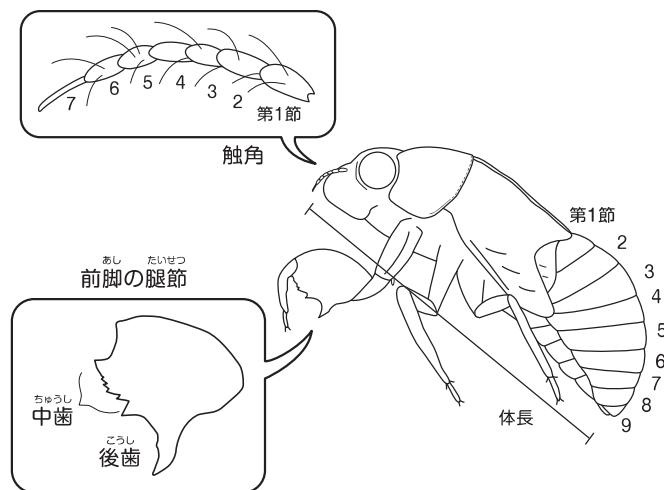
夏、市内でふつうに見られるセミは、ニイニゼミ、アブラゼミ、クマゼミ、ツクツクボウシの4種類です。

どのセミも、木の幹によく似た色や模様をしているため、姿を見つけるのは大変ですが、特ちょうのある声でよく鳴くので、声をたよりにすると、手軽にいる場所が見つかります。

鳴き声が聞こえてくる場所を調べたり、ぬけがらを探したりして、どんなセミがどんな環境に多いかを考えてみましょう。



◎ぬけがらの見分け方



◎ぬけがらの見つけ方

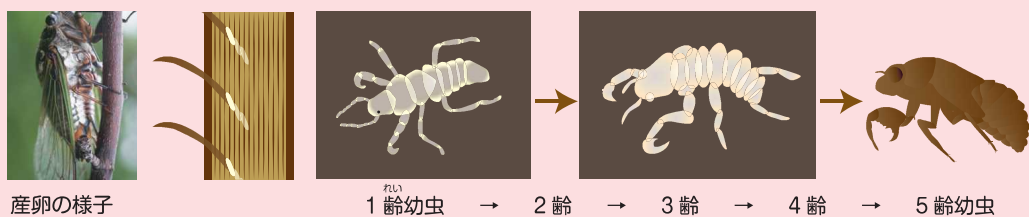
ぬけがらは、木の幹や枝の先、葉の裏などで見つかります。草の葉の裏や建物のかべについていることもあります。

まず、探す場所を決めて、セミが出る時期の前に、前年のぬけがらを取り除いておくと、その年に出たぬけがらだけを見つけることができます。



セミの羽化は、午後7～9時ごろによく見られます。安全のため、子どもは、必ず、おとなといっしょに観察しましょう。

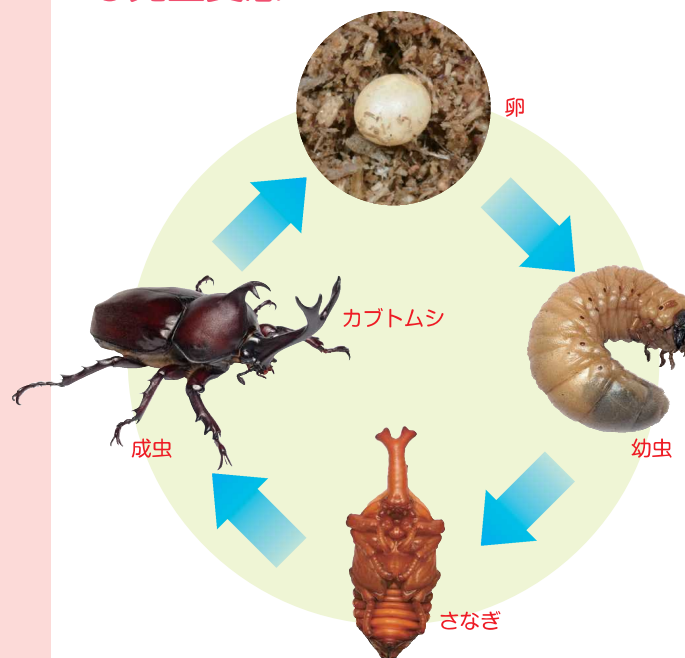
秋雨か梅雨のころに、卵から幼虫が出てきます。幼虫は、土の中で木の根のしるを吸いながら大きくなります。ツクツクボウシは3年くらい、アブラゼミは5年くらいかけて成虫になります。



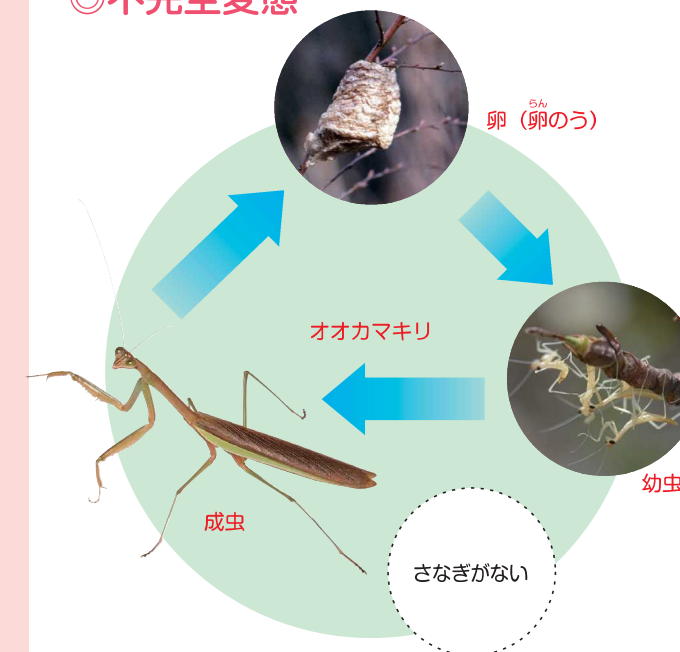
(4) 昆虫の育ちを調べてみよう

昆虫の成長のしかたには、卵⇒幼虫⇒さなぎ⇒成虫の順に育つ「完全変態」と、卵⇒幼虫⇒成虫の順に育つ「不完全変態」の2種類があります。身の回りにいる昆虫はどちらの成長のしかたをするのか、観察してみましょう。

◎完全変態



◎不完全変態



このほかにも…

チョウ	テントウムシ
アオスジアゲハ	ナナホシテントウ
ガ	ハチ
オオスカシバ	セイヨウミツバチ

このほかにも…

セミ	バッタ
クマゼミ	オンブバッタ
カメムシ	トンボ
ツヤアオカメムシ	シオカラトンボ